

編集発行：山口県立大学同窓会桜圃会

〈事務局〉〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095

メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

印刷：(有)中央印刷社

O u h o k a i - K a i h o u

桜圃会 会報

Vol.54

平成18年3月1日発行



「桜の森記念碑除幕式」
平成17年6月8日



オーナーの名を刻んだ記念碑

とき
時空を超えて紡ぐ

会長 吉村 京



桜圃会会員の皆様には恙なく、お過ごしのこと拝察します。

お待たせいたしました。
会報54号お届けします。

会報は、例年十一月に発行して参りましたが、今年度は新会員の入会式（卒業式）と次年度総会の

ご案内の時期等を勘案して三月発行を試みましたため、随分と間延びしましたことをお詫言します。

桜圃会も昨年度に創立六十周年の節目の行事を全て終わり、「桜の森プロジェクト」事業も、オーナーの方々全員の銘の刻まれた記念碑が、校舎を見おろす高台の一角に建立され、昨年の六月八日に除幕式が執り行われました。その際には会員の皆様のご協力が認められ、桜圃会長がオーナー一同の代表としてご祝詞を述べる機会をいただきました。

ご承知のとおり、母校もいよいよ来る四月一日から、独立行政法人に移行し、十九年度からは学部、学科の再編も予定され、大きく変わらうとしております。

わが母校は県立の「女子専門学校」

として昭和十八年に開学し、以来「短期大学」「女子大学」そして「県立大学」と変遷する中で、建学の精神と理想に支えられ、山口の歴史と文化と自然に恵まれたすばらしい宮野の里で地域とともに発展し、多彩な人材を輩出して参りました。

これからも二十一世紀に対応できる優れた人材の育成をめざし、更なる発展を願うとともに、建学の精神と古き良き伝統と、地域との絆等大切にして引き継いで欲しいものと念じております。

桜圃会としても時代や環境が移っても、世代を超えて受け継ぎ、未来に残したいもの、伝えていきたいものを大切にしながら、新たなスタートラインに立った母校のよりよいパートナーとして、母校の発展を見守り会員相互の絆を深めるための努力が、より一層求められています。

これらも皆様方のご意見・ご提言、そして積極的なご支援ご協力を心からお願いたします。

（昭和31年被服卒）

『山口県立大学の 独立行政法人化を控えて』

山口県立大学独法化準備室

室長 三島正英（大学本部EOU）
室員 前田安典（学事文書課大学班員大駐在）

これまで山口県が設置・運営してきまされた山口県立大学は、予定どおり、本年四月から、山口県が新たに設置する「公立大学法人山口県立大学」において、設置・運営されることになりました。

法人化の目的は、山口県立大学が、これまで以上に、教育研究に積極的に取り組み、地域に対する貢献活動の強化や大学運営の効率化を図るため、山口県の組織から独立し、自律的・主体的な運営を行って、より存在感のある大学となるようにするためです。

法人が、大学の予算や組織の編成などを自ら決定することができることから、学習支援や就職支援など、学生からの様々なニーズに対して、迅速かつ弾力的な対応が可能になります。

なお、大学の名称や場所はこれまでどおりであり、山口県が引き続き、必要な財源の一部を

措置しますので、民営化し、独立採算制となるものではありません。

法人化にあたり、その目的を達成するため、大学の今後六年間の中期目標・中期計画を掲げ、県民の皆様にご知らせするとともに、大学の運営状況について定期的な第三者評価等を実施する予定です。

特に、中期計画案においては、地域に開かれた大学づくりを推進するため、桜園会の皆様とのより効果的な連携についても掲げているところです。

法人化後の山口県立大学が、就任予定の江里健輔理事長（学長）を中心とした学内一体による自律的・効率的な取組により、桜園会の皆様はもとより、学生や県民の皆様から高く信頼され、全国に誇れる活力ある大学となるよう努めてまいります。

今後とも、引き続き、御指導の程、よろしくお願いいたします。

昨年六月八日に「桜の森記念碑除幕式」を、吉村桜園会会長さんを始め、ご来賓の方々のご列席もいただき、執り行わせていただいたから早や九ヶ月、県立大学としての最後の卒業式と公立大学法人としての初めての入学式を目前に控えた平成十八年の弥生を迎えま

桜の森だより

桜園会員の方と桜の森

庶務課長 吉岡 進

した。
時は、やはり三月、昨年のことでしたが、ある桜園会員の方から一通の和紙に書かれたお手紙とともに、ご自分の名札を誇らしそうにレンズの方に手を添えて向け、その名札の掛けられたご自身より少し背の高い桜の木の横に立って写っておられる写真をいただきました

した。
以前、ご自分の木が見あたらないというお電話をいただいたため、植樹されている場所を探して位置がわかるように写真に収め、ご連絡させていただいたことへのわざわざのお礼のお便りでした。
このとき、会員の皆様の桜の森

会員の皆様や会員以外のオーナーの方々の桜の森に対するお気持ちに大事にするとともに、桜島の地にサクラの森を現出させるといふ当初の目標を実現させるために、組織的な取組によって補植や課題の解決を図っていくことが肝要かと思えます。
会員の皆様におかれましては、今後も大学の運営はもとより、桜の森に対しても変わらぬ暖かいご支援を賜りますようお願いいたします。



人事異動

- 退職
岩田啓靖 学長
熊本守雄 国際文化学部教授
片山弘基 国際文化学部教授
李 修京 国際文化学部助教授
松川由紀子 社会福祉学部教授
三船直子 社会福祉学部助教授
足立蓉子 生活科学学部教授
野口多恵子 看護学部教授
三原博光 看護学部教授
羽倉雅子 看護学部講師

- 新任
金 惠媛 国際文化学部助教授
重岡 修 社会福祉学部助教授
大石由起子 社会福祉学部講師
兼安真弓 生活科学学部助手
森本知佐子 看護学部講師
藤本美由紀 看護学部助手

- 事務局職員転出
陶山具史 下関市副市長
有安克人 県民文化ホールいわくに
内藤 覚 教育委員会
山野敬子 水産課
徳重和男 ひとづくり財団総務課
山藤真理子 山口農林事務所総務課

- 事務局職員転入
本廣正則 事務局長
磯部功雄 事務局庶務課主査
吉山幸博 事務局会計課主査
松屋 明 事務局会計課主任
生重朋子 事務局会計課主任主事
横田雅行 教務部教務課主査
小枝原めぐみ 教務部教務課主任

平成十七年度 桜園会総会開催

第六十一回桜園会総会が平成十七年五月二十二日（日）サンルート国際ホテル山口において百三十名の出席を得て開催されました。司会の野村百合枝さん（児文昭59）の開会の辞に続いて、吉村京会長より「昨年の六十周年を契機として、更なる桜園会発展へ向けて歩み出す新しいスタートと本總會を考えます。」のご挨拶が、そして岩田啓靖名誉会長からは「平成十八年度の大学独立行政法人化という母校のチャレンジをどうか温かく見守って頂きたい。」との言葉がありました。



「己の華を咲かせたい」という思いで道を求め自己を求め続ける華の道について語られました。最後に「それぞれの自分の華を咲かせて下さい。そして実を結び種を撒き、新しい芽を育てて下さい。」との素晴らしいメッセージを頂戴しました。

議事は議長の入江幸江さん（院平17）により進行。今年度から会報の発行時期を三月一日に変更し、会報発送の際に総会案内状を同封して経費の削減を図りたい旨提案があり、質疑応答のち承認されました。講演は、県立大学非常勤講師で

あり華道家の蔵重伸先生（院平15）による「花ありてなほ真の（まこと）はな」。まず、「生花新風体」「立花」「自由花」三作のデモンストラーションから始まり、軽妙なトークとともに次々と美しく生けられる花にみな目を見張りました。そして見事な作品を横に講演へ。国際交流のため訪れた国々での出来事やその旅の中での出会い、三十年以上続けて来た今も「己の華

会食時には、六十周年記念事業として作成された大学関係のデジタル映像が流され、歓声とともに想い出を辿るひとときも。今回はレクリエーションとして当日開期最終日の興福寺国宝展鑑賞への案内があり、閉会後多くの

方が新緑のパークロードを美術館へと向かわれました。
（昭和60年児文卒 大前記）

平成18年度 桜園会総会のご案内

■日時

平成18年5月28日（日）
午前10時～午後2時

■場所

ホテルニュータナカ
山口市湯田温泉2-6-24
TEL083(923)1313

■講演 （演題）

「生涯現役で広がる
新たな福祉のまちづくり」
（講師）

■会費

5000円
当番幹事はS.35・40・
45・50・55・60 H.2・
7・12・17年卒業のクラ
ス幹事さんです。

■申込み・お問い合わせ

出席のご返事、お問い合わせは、同窓会事務局までお願いします。

■尚、出席ご希望の方は、

5月17日（水）までお知らせください。

※従来の葉書きによる総会

のご案内は経費削減のため致しません。ご了承ください。

平成16年度桜園会会計収支決算書

H17.3.31 (単位:円)

科 目	16年度決算額
収入金	2,572,744
繰越常会費	3,091,000
本部入金	4,899,765
事業負担金	1,029,000
雑収入	5,570
繰入金計	1,000,594
合計	12,598,673

支出金	金額
総会議費	1,144,634
会費	408,896
支部援助費	990,860
事業費	1,594,504
(会報作成)	1,437,512
(公開講座)	156,992
入会記念品費	280,000
桜園会賞費	384,512
旅費	1,176,622
通信費	565,885
印刷費	64,785
事務局運営費	2,144,519
名簿管理費	6,300
備品費	144,900
消耗品費	188,938
雑費	147,170
予備費	0
合計	9,242,525
次年度繰越金	3,356,148

風薫る平成十七年五月二十一日、白く輝くザビエルの塔を眺めながら、サンルート国際ホテル山口に於いて、十七支部十八名の支部長及び関係者十四名の理事の出席を得て、支部長・理事合同会議が開催された。

この会議の目的は、主として大学の近況報告、支部間の情報交換、懇親を深めることで、今回も各支部から様々の情報が寄せられ、大変有意義な会合となった。

関東支部に於いては、百三十五名という多くの出席を得て支部総会を開催されており、非常に生き生きと活動され、桜園会の存在意義を認識されている。

逆にほとんどの活動を支部長さん一人でも背負われ、苦労されている支部もある。

東海支部は、若い人に仕事を任せて参加を促す努力をされている。

「第九回 支部長・理事合同会議」

また佐賀支部のように、卒業の時支部が無いことを非常に残念に思われ、平成十二年念願の支部を立ち上げ、同窓会の輪を広げようと努力されている支部もある。

基本的に役員は交代制を取っている所が多いが、なかには代わってくださる人が無く、長年続けておられる方もある。人を集めることと、役員人事は半永久的に続く悩みかも知れない。できるだけ多くの会員に実情を知ってもらい、協力をお願いしたいものである。

さて、早や春三月、樹々は芽吹きを待ち、来年度の総会も間近となった。

会場も変わるといふことで、また新たな人の出会いが待っているかも知れない。それもまた楽しみである。

（昭和44年国文卒 西嶋記）

第四回桜園会賞 受賞報告

観光ボランティアガイドとして
地域社会へ貢献

第4回
桜園会賞
受賞のお礼と近況報告
功労賞 市川 益子

一昨年は第四回桜園会功労賞を頂き有り難うございました。これからの人生を精一杯老骨に鞭うち、今迄通り、日々新たにボランティア活動が続けられる心身の持主でありたいと願っております。然し、八十歳近い年齢は、心とは裏腹に体が動いてくれず、老兵は消えゆくのみ、潮時かなとも思ったりします。

十一月五日(土) 尾道・源氏絵まつりが浄土寺交差点に開催され、恩師目加田さくを先生の源氏物語講座を聞く機会を得、久し振りに東西より集まった同窓生二十名余



は、学生時代にタイムスリップ致しました。宮野美紗子様(国文昭20)のお誘いから、身近な人に声かけし、よい思い出ができました。それにしても先生の米寿とは思えない若き張りのあるお声、学問への情熱、聴衆への心遣いに、私達は平安朝の雅びに浸ると共に、楽しい語りもでき、お互いが同窓生でなければ味わえない喜びを満喫致しました。

山口市では夏祭の祇園祭が盛大に行われますが、現在は廃れてしまった連歌が、笠着堂で七日間巻かれていたことは防長風土注進案に記載されているのに、原物を目にする事ができませんでした。然し奇しくも三の宮宮司宅のお蔵の古文書中から見つかりました。祭神の啓示としか考えられない偶然でした。早速市史編纂室へお伝えし、只今鋭意調査整理中です。私は正確な本当の山口市史が編集されるよう願っています。これが契機となり、第21回国民文化祭では連歌についてその催しが計画中で

すし、「雪舟と文化維新」の推進委員でもあり二足のわらじです。近況報告まで。

(昭和22年国文学卒)

国際民宿を経営し国際交流・
日本文化の紹介に貢献

第4回
桜園会賞
心の風景を
広げています
功労賞 新井登美代



此の度桜園会より身に余る功労賞を頂戴し、心より御礼申し上げます。丁度秋は、開府四百年の記念の年。観光の一助になればと賞金の方は寄附させて頂きました。

一昨年の暮から年来のリウマチの上に新たな別の病気の挑戦を受けました。五カ月の冬眠、おかげで私の時間をたっぷりと持つことが出来ました。

北原白秋の「か艶葉くろはにしづみて 匂ふ夏霞、若かる我は見つ、覗ざりき」この歌をしみじみ味わいました。若い時は物事の上辺をみてこと足れりとしていたのですが、今は一つひとつを我が身にひき寄せて凝らして観ると、心の風景が広がるのです。苦しみさえも楽しく豊かなものに変えていく特技を持つ事が出来る様になりました。肉体的には現役を引退していま

すが、心は生涯現役で暮らしています。若い方々から澤山の若素じやくそを頂き、私の弱素じやくそはよみがえりながら、回転しています。弱素と若素の交差点の中で、若い人のパワーと自分なりの工夫の中で、心の風景を紡ぎながら、生きています。多くの方々の優しさと、いたわりにつつまれ、病気とはおだやかにつき合いをしながら、感謝と祈りの日々をすごしている昨今でございます。

皆々様が健やかでありますことを心より祈りつ。

(昭和26年国語卒)

第4回
桜園会賞
「奨励賞」を受賞して
フラメンコ部

部長 六條奈緒美

フラメンコ部は山口県立大学の中でも伝統のある部です。多くが初心者ですが、先輩方の指導の下、日々楽しく活動しています。去年は姉妹校である韓国の慶南大学の学園祭にて大勢の観客の前で私たちの踊りを披露させていただきました。言葉にならないほどの達成感を味わえました。

三年ほど前より学外からの依頼も受けるようになり活動の場が広がりました。県内のイベントにも積極的に参加し、子供の日には子供用にスカートも用意し、敬老の

日には老人ホームを訪問し、踊りの披露やフラメンコを基にした体操と一緒にするなど、地域の方との交流もできるようになりました。

奨励賞をいただいたことにより、フラメンコの道具を新たに購入することが出来、今まで出来なかったスタイルの踊りに挑戦することが可能になりました。地域で公演する機会も増え、次の世代へとその活動は受け継がれています。二〇〇七年に山口県で開催される国民文化祭への参加にも力を入れており、地域の人たちとともにイベントを成功させようと部員一同努力しております。私共の活動を大いに評価して下さった奨励賞の受賞は、私たちの支えとなっています。この受賞に携わっていたいた皆様から感謝申し上げます。

(国際文化学部)



第五回桜園会賞 受賞報告

第5回
桜園会賞

奨励賞を受賞して

ぶちボランティア
センター
センター長 山下 貴美子



山口県立大学社会福祉学部学生ぶちボランティアセンターは、一昨年、学生により立ち上げられた、学生のためのボランティアセンターです。学内外の様々な方のご協力の下、活動を行っています。今回、桜園会奨励賞を頂けたことにおいても、そのような方々のご支援、ご協力の賜物であると言っても過言ではありません。

現在、私たちは、学内に寄せられるボランティア情報を収集・整理し、学生に提供することを主な活動としています。具体的には、定期的に開放日を設け、ボランティアセンターの企画・運営、さらに、社会福祉学部棟

桜園会個人情報の取り扱い方針

山口県立大学同窓会桜園会は、「個人情報の保護に関する法律」の施行に伴う個人情報取扱事業者となりましたので、「山口県立大学同窓会桜園会個人情報保護方針」を決定いたしました。会員の皆様の個人情報につきましては、今後とも慎重に取り扱い、適切に対応してまいります。何卒ご理解、ご協力をお願いします。

『山口県立大学同窓会桜園会個人情報保護方針』

○山口県立大学同窓会桜園会（以下「本会」という）は、会員等の個人情報を本会が実施する諸活動に利用していますが、「個人情報の保護に関する法律」の施行に伴い、以下の方針に基づいて、本会の保有する個人情報保護に努めます。

- 個人情報の取得について
本会は、適正かつ公正な手段によって個人情報を取得します。
- 個人情報の利用について
本会は、以下の利用目的の範囲内で、個人情報を利用します
 (1) 同窓会会報（本部同窓会、支部同窓会）等、刊行物の発送
 (2) 同窓会（本部、支部会）等が主催する行事の案内
 (3) 同期会、（クラス会）研究会及びクラブOB、OG会等が主催する行事に係わる案内（案内通知等代表者に委託することがあります。）
 (4) 会費徴収に係わる事務
 (5) 桜園会支部等の新規設立に係わる案内
 (6) 会員に対するアンケート調査の実施
 (7) 会員並びに準会員（在校生）への就職支援
 (8) 山口県立大学からの各種依頼の伝達・送付
 (9) 会員名簿の作成（当分の間会員名簿は、発行しない）
 (10) その他、上記に関連する業務
- 個人情報の第三者への提供について
本会は、法令に定める場合を除き、事前に本人の同意を得ること無く個人情報を第三者に提供しません。
- 個人情報の管理について
 (1) 本会は、個人情報を正確に保ち、さらに安全に管理するために不正アクセス、コンピューターウイルス等に対する適正な情報セキュリティ対策を講じます。
 (2) 本会は、個人情報の外部への漏洩対策を講じます。
 (3) 本会は、業務の一部を外部の業者等に委託する場合があります。この際、会員の個人情報をこれらの業者に知らせる必要がある場合には、信頼のおける業者等を選択し、個人情報が入り込まないよう契約等を交わします。
- 個人情報の開示、訂正、利用停止等について
 (1) 本会は、本人が自己の個人情報について開示、訂正、利用停止等を求める権利を有していることを尊重し、これらの要求があった場合には速やかに対応します。
 (2) 上記（1）の事項の連絡・質問・苦情等の受け付け窓口は、本会事務局とします。
 TEL & FAX (083-925-7485)
 E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp
- 組織、体制について
 (1) 本会は、個人情報保護管理者を任命し、個人情報の適正な管理をします。
 (2) 本会は、本部および各支部の役員と事務局職員に対して個人情報の保護および適正な管理方法について周知を行います。
- 個人情報保護のための管理内規等の策定、実施、維持、改善について
本会は、これらの安全に対する方針を実施するため、個人情報の保護に関する管理内規を定め、これを本部および各支部の役員と事務局職員に周知させ、継続的に改善します。

自動販売機横の掲示板やインターネットを使つた情報提供なども行っています。また、先日は、学生のボランティア活動の意義・実態を把握するために、アンケートを行いました。

現在は、社会福祉に関連したボランティア情報を多くあつかっていますが、今後は、地域の方々とのつながりを大切にして、山口県

立大学の学生誰もが気軽に活用できるボランティアセンターを目指していきたいと考えています。

今回の受賞では、学内の方々が応援してくださっているということとを心から実感することができ、大変心強く思いました。今後の活動につながる大きな力となります。本当にありがとうございました。

(社会福祉学部)

功労賞

第五回は、該当者がありませんでした。

桜園会賞への応募を

桜園会賞は、母校創立六十周年を記念して設立されました。功労賞と奨励賞があります。皆様ふるってご応募下さい。応募要綱は最後のページをご参照下さい。

新刊紹介

『秋藩毛利家の食と暮らし』
江後 迪子 著（昭和30年食物卒）
つくばね舎 (二、二〇〇円＋税)

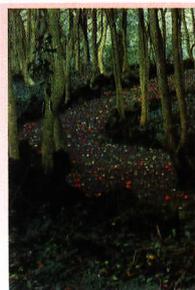
秋藩毛利家の食と暮らし

江後迪子



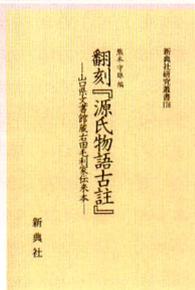
『開放たれ』

木戸 洋子 著（昭和32年国文卒）
短歌新聞社 (二、三八一円＋税)



『翻刻「源氏物語古註」』

山口県立大学蔵石田和家伝来本
熊本 守雄 編（本学名誉教授）
尾道大学大学院教授
新興社 (三、五、〇〇〇円＋税)



『続やまぐちは日本一』

安浜 遊地 編（国際文化学部教授）
弦書房 (一、〇〇〇円＋税)



桜園会公開講座

『人が映画をつくる』

映画が人をつくる』

映画監督 佐々部 清

平成十七年九月十六日(金)
桜園会館に於いて「半落ち」「四日間の奇蹟」等で知られる下関市出身の映画監督、佐々部清氏を招いて公開講座が開催されました。以下は講演の概要です。



今はフリーで会社には所属していない。映画監督というのは、カメラの傍のいい位置で俳優の芝居を間近で見られるという、お金にはならないが、いい仕事をしていると思っている。

助監督を十八年やり、三年前に監督デビューをした。七、八年前に監督をしないかという話があったが、自分のなかにある「何の映画を」「どんな形で作るのか」「人をどう描くか」が大切な問題なので断った。助監督をしながら作品選びをするようになった。少し天狗になりかけていたとき、映画「鉄道員(ぽっぽや)」に出会い、俳優、監督、カメラマン……平均年齢七十歳位かというベテランたちを見てショックを受けた。いわく「一生懸命やらない人はこのチームには要らない」「七十人位いてもサボっている人は一目でわかる」「一生懸命やっている人はなかなか目につかないが、誰か

くても映画は見るように」と言われた。上京後も大学にはほとんど行かず年間三百本くらい見た。朝は築地市場で働き、夜はバーテンをしながら二年間映画学校へ通った。

が見ている」……これらは現在自分のチームのスローガンでもある。映画から実にたくさん学んだ。十三年前父親がなくなつて下関に帰ったとき、「いいな」と思える場所が自分の原風景だと気づいた。人が生まれて生きることと大切にしたい。「あたらなよ」といわれる映画でも、助監督時代の馴染みの俳優は喜んで出てくれている。

次の作品は回天をテーマにした「出口のない海」。尊敬している山田洋二監督の脚本で、「監督をしないか」と言われたとき夢は叶うものだと思つた。すでに回天の基地大津島も取材済みで、戦争を知らない世代へのメッセージとした。東京近くで撮れば安い、山口県の風景に拘りたい。「ズルするな」という言葉に従い、まがい物にはしたくない。ちゃかちゃか撮つてはいけないと思う。そういう気持ちは伝わるものだ。

商業監督なので「芸術」をやる気持はないが、下関に住む母親や妹が自慢できるものを作りたい。地味ではあるが「佐々部映画」を応援して頂きたい。

「昭和35年国文学(原田記)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆教職員
旧教員 宏 H17.3
旧教員 弥 富 H18.1.29
旧教員 職川 智 H15.7
旧教員 職根 チトセ H16.6.17
旧教員 職村 厚 史 H17.2.20
◆会 員
S24被服 裕 子 H15.3.14
S19被服 船 勢 康 子 H15.8.17
S43国文 脇 本 康 子 H15.11.24
S28被服 石 川 孝 子 H15.12
S24育児 原 田 和 江 H16
S24生活 西 原 洋 子 H16
S20家事 内 田 小 夜 H16.1
S30児童 若 月 和 子 H16.1
S40被服 畦 森 禎 子 H16.8.23
S22保健 珠 玲 子 H16.12.21
H14健福 大 輔 H17.1.8
S30被服 野 木 泰 子 H17.1.26
S31児童 中 野 英 H17.2
S24育児 山口 英 子 H17.3.10
S28被服 西 玲 子 H17.3.21
S23国語 中 村 昭 子 H17.4.1
S39国文 松 本 栄 子 H17.8.10

桜園会支部リスト (平成18.1.11現在)

支部名	支部長名	支部長連絡先	支部会員数(名)
山口	徳永サダコ(国分35)		1,270
宇部	村田 宣子(被服37)		819
小野田	堀 真由美(被服50)		151
下関	中田百合子(保育39)		463
徳山	山田 圭子(国文42)		340
下松	神田 禮子(食物36)		308
萩	藤井 郁子(国文47)		156
防府	町田 芳枝(被服49)		454
長門	中澤 充子(被服36)		117
柳井	平原 絹子(食物36)		227
岩国	藤本 芳江(生活25)		211
北九州	田中 慶子(保育36)		428
広島	松原 正美(国文33)		531
近畿	南 宣子(国文35)		620
関東	武田美智子(食物43)		866
福岡	毛利 雛子(国文34)		459
四国	村松 幸子(食物35)		225
東海	太田 和子(被服48)		116
佐賀	久保由美子(食物49)		105
大分	栗屋 文世(国文44)		256

平成17年度 支部会開催報告及び予定

開催日	支部名	本部からの出席
4月24日	山口	林 隆先生 京会長 吉村
6月5日	近畿	吉村 京会長 小野田
6月11日	関東	土田 敏子理事
6月12日	東海	
6月18日	福岡	足立 蓉子先生
6月19日	萩	三宅 義子先生
6月24日	下関	大学見学
6月26日	宇部	赤羽 潔先生 京会長 吉村
8月10日	広島	松岡 洋子先生
10月25日	徳山	福田百合子先生
平成18年3月4日	大分	松岡 洋子先生

支部だより

下関支部総会

「母校訪問」

岩佐 紘子

青春の山口を思い起こさせる、六月の暑い日差しの中、母校のキャンパスに到着。早速桜園会事務局土田さんの案内で校内散策へ。旧校舎の位置は？幼稚園は？寮は？あれは何？と桜園会館までの二十分間で学生時代に戻り、会員同志の会話も弾み、先輩・後輩の気持ちも一つに。豊富なメニューの学生食堂では「是非利用したいネ」の声がしきりでした。

威風堂々とした桜園会館では、重厚な雰囲気味わいつつ繊細な色づかいの桜の緞帳に目を奪われました。作成に関わられた先輩方のご苦労があったと伺いました。舞台裏の数々の近代的設備を見学して、いよいよ表舞台での記念撮影。一人ひとりが主役になったつもりで、賑やかに「ハイ・ポーズ」。記念植樹の桜に別れを告げて支部総会会場へ。

総会では支部会費について、討議され決議されました。

「総会に出席する事が会員の使命」と思い出席させて頂いています。

という大先輩の言葉を胸に、今年度の総会を終えました。

「今日はありがとう。本当に懐かしかったですよ。これを機会に又お会いしましょう。」と幹事一同、労って頂き大感激です。

ご参加の会員の皆様、当日の案内、資料配布、桜園会館への折衝等々お力添え頂きました事務局の皆様、心よりお礼申し上げます。
(昭和39年保育卒)



桜園会館の舞台上で

卒業生近況

「自分探しの旅」

国貞 雅子

ただ理由もなく物心ついた頃から、歌を歌う事が好きだった。春夏秋冬…。明けても暮れても毎

日毎日、辺りの景色が赤く染まるまで優しい自然の中で遊ばせてもらった。春はレンゲ畑が私の舞台、

夏は山蟬の喧燥の中、川遊び、秋は枯葉を踏み分け山神に出会い、冬は小雪ちらつく細道を歌いながら歩くのが好きだった。あの頃の好奇心はそのまま、水溜まりを飛び越すくらい大人になっただけ。

ただ歌が好きだった。その気持ちだけで、私は歌からたくさんのお返しを学んだ。歌はいつのまにか私自身になった。自分を掘り下げて探求していく苦しみの中で自分というちっぽけな存在に嫌という程直面させられた。不完全な自分を感じれば感じるほど、私にとって

歌は「人の為に自分が出る事」という意識が変わっていった。ただ歌う事が楽しかったあの頃から二十数年間、歌に私は教えられ、歌を歌う事で多くの人々の暖かい拍手や励ましの言葉を頂いた。だからこそ今自分があると感謝を感じずにはいられない。

私は歌を通じて自分探しの旅が始まった。これからまだまだ旅は続く。「自分が自分である事」が輝く足跡になって、少しでも人々の力や励みになればと思う。それ

が私の喜びであり、歌を歌う理由であるような気がするから。
(平成10年国際文化卒)



山口支部ジャズライブ風景

「家具屋始めました！」

溝内 健吾

昨年八月末に、大学時代の同級生と、山口市大殿大路に家具屋「LBファニチャーワークス」を開きました。

私は平成十四年環境デザイン学科を卒業し、その後、ものづくりを続けていました。相手は、フィランドに二年間留学し、木工を学んでいました。私達は、全て手造りの家具を制作・販売しています。

学生時代に学んだことも活かし、造形・機能・質感を重視した家具をつくっています。オーダーを受け、お客様との打ち合わせを繰り返し、満足いただける品を提供で

きるように努力しています。今のところ注文も絶えず頂いており、現在二十点ほど納品しましたが、お客様の中には女子大時代の卒業生の方がいらっちゃって、教授の話で盛り上がったこともありました。

今は、店を維持することで一杯ですが、色々な方々に応援していただき、大変ありがたく思っております。いずれ、私達も、何か後輩達の力になればと、今から楽しみにしています。

ちなみに、私達の店は、町屋再生事業のモデル二軒目として、築八十年以上の古い町屋が改修された物件です。一の坂川にちなんだ「桜」がモチーフとして建築の中に取り入れられました。県立大卒の私は何かの縁を感じています。是非一度お立ち寄り下さい。
(平成14年環境デザイン卒)



LBファニチャーワークス 店内にて

事務局から

経常費納入方法変更のお知らせ

昨年度まで会報は、11月発行でしたが、今年度から3月になりました。それに伴い、今年度に限り、経常費2ヵ年分（平成17年度分、平成18年度分 計2,000円）の納入をお願い致します。なお、平成16年度が未納の方は、3ヵ年分3,000円となります。

また、65歳以上の会員で希望される方は、会費1万円で終身会員になることができます。桜園会の活性化並びに運営の維持のために、経常費の納入にご協力ください。

あなたの最新の情報をお知らせください。

振込用紙には、会員番号（封筒の宛名シール右下）、科、卒業年、勤務先、送金明細、郵便番号、住所、氏名、電話番号に変更がある場合桜園会事務局までご連絡ください。

コンピューター処理を行いますので、郵便番号及び住所（〇〇番地まで）を正確にご記入願います。連絡、質問等の窓口は、桜園会事務局（職員在室日は、水、金曜日の10時～17時）

住 所 〒753-8502 山口市桜島3-2-1 山口県立大学同窓会桜園会事務局
 TEL&FAX 083-925-7485
 E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

大学のホームページからでもアクセスできます。（<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp>）

桜園会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。

一 経常費納入記入例一

00	下 関	払 込 取 扱 票	
口座番号（右詰めに記入ください）			
01570	2	25095	金額 ※ 千 百 十 万 千 百 十 円
加入者名 山口県立大学同窓会桜園会			料 特殊 取扱
※ 会員番号（194301001） 家事科		専攻 18年卒	
① シールの名前下の番号が会員番号		お願ひします	
勤務先 山口県立大学		TEL 083-925-7485	
送金明細 平成17年度 1,000円		計 2,000円	
平成18年度 1,000円			
住所変更等ございましたら出来るだけ詳しく御記入下さい。氏名にはフリガナをつけて下さい。			
（郵便番号 754-1101）		正確に	
※ 住所 山口市秋穂東 7460		番地まで お書き下さい	
氏名 さくらばたけ はなこ 桜島 花子			
(電話番号 083-984-1111)			
市町村合併後の住所をお書き下さい。			

桜園会賞応募要綱

功労賞は、卒業後の会員の活動をたたえ

- ① 地域社会の文化の振興
- ② 生活文化の創造や普及
- ③ 文化的環境づくり
- ④ 地域社会や文化を担う人材育成

に寄与する活動をしている人に授与されます。桜園会本部或は支部又は他の会員の推薦を受けて応募して下さい。

奨励賞は、準会員（在学生）の活動を支え、上記①～④の活動が期待される人に授与されます。大学教員の推薦を受けて応募して下さい。

尚、受賞者は選考委員会の審査を経て決定されます。

編集後記

会報54号、やっとお届けできました。一安心致しております。

とは言え、総会の記事は、ほゞ一年前のこととなり、特に第四回桜園会賞ご受賞の方々には、大いに時機を失しましたこと、誠に申し訳なく、お詫び申し上げます。

それもこれも、近頃、何故にやあらん、経常費納入者は下降の一途。設立以来、常に清にして貧なる我が桜園会、このまゝでは日本国家同様、ついには破産の憂き目に至るやも知れず、次年度総会のご案内も兼ねて、三月発行を試みる仕儀と相成りました。とにかく皆様、何はともあれ経常費を。と、事務局の切なる心情乗り移り、気が付けば編集後記まで、納入の懇願となっております。嗚呼!!

加えてムツカシキモノ「個人情報保護法」。名簿係の方々も頭を悩まされた54号でした。

さもあれ、桜島、桜園会、桜の森…さくら色に結ばれた皆様に、春もや、桜待たる、この日頃、会報のお届けも又一興かと、思い直したりもしております。

ご意見をお聞かせ下さい。

(熊本記)